

平成30年度 第2学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

	現在の授業についての分析・検証結果	授業改善に向けての具体的な方策	補充・発展的指導の計画	成果○ 課題●
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>読みの学習では、約9割の児童が、場面や登場人物の気持ちの変化等を読み取っている。</li> <li>漢字の学習では、1学期末の学年平均習熟度が約8割となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人物の特徴や結末を学級全員で確認し、学級全員が読みの共通の素地を理解した上で、物語の読み取りを行う。</li> <li>継続して毎日繰り返し練習させ、その場で間違いを直させることで、正しい漢字を習得させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書室での活動で物語等を読む時間を多く設定し、本に慣れ親しませる。</li> <li>漢字を書き取ることが苦手な児童には、なぞり書きや視写をさせて、正しい漢字を書かせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年間を通して、約9割の児童が、場面や登場人物の気持ちの変化等を読み取ることができた。また、音読を重点的に指導したことで、全児童が学芸会では動作化して登場人物の気持ち等を表現することができた。</li> <li>○毎日繰り返し漢字指導を行うことで、漢字の平均習熟度が約9割と上がった。</li> <li>●漢字の習得が苦手な児童には、引き続き繰り返し視写等の指導をする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>約9割の児童が、繰り上がり、繰り下がりのある計算を正しくすることができる。</li> <li>長さや時間等の量の学習の学年平均習熟度が約8割となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物等を使い、繰り上がり・繰り下がりの様子を視覚的に印象付けることで、児童全員が正しく計算できるようにする。</li> <li>物差しを使った計測や時計を読む体験を日常的に取り入れることで、児童全員に定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数値が書き込まれている物差し等の教具の使用を通して、量感を育てる。</li> <li>東京ベーシックドリルを活用し、習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の学習終了後も学習の中で引き続き計算指導したところ、約9割の児童が、繰り下がり、繰り上がりの筆算をすることができた。</li> <li>●長さの学習では、計測した値に適切な単位を選ぶことが苦手な児童が多かった。量感を育てるために、計測の経験を増やす。</li> <li>●乗法九九を唱えられる児童が約8割であるため、全児童が唱えられるように、復習する時間を設定する。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的な児童が多く、ワークシートに書き切れないほど気付いたことを記録している。</li> <li>ほぼ全員が、学校探検の様子や栽培記録を、ワークシートに書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町探検やおもちゃづくりなど、体験的な学習を行う機会をより多く設定し、児童の関心を高める。</li> <li>観察や見学のめあてを全員が理解して活動できるよう、課題設定場面の時間を十分にとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的にワークシートに記録している児童には、多様な観点を提示し、より多くの気付きができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おもちゃ作りなどの体験的な活動を多く取り入れたため、全児童が意欲的に学習に取り組んだ。また、それにより、おもちゃをよりよく改善する時間等も多く設定することができ、思考力も上がった。</li> <li>●植物の観察等では、天候等の影響により、植物が十分に発育せず、ねらい通りの観察ができないことがあった。多様な植物の栽培を計画し、天候等の影響に備える。</li> </ul>

平成30年度 第2学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

<p>音 楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽づくりの学習では、全員が5音によるよびかけとこたえの旋律づくりをすることができる。</li> <li>・音の高さに気を付けて歌うことができる児童が多い。反面、怒鳴って歌っていることに気付かない児童も1割程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽の活動では、〔共通事項〕を手掛かりとして音楽づくりとの関連を図りながら音楽表現の技能の習熟を図る。</li> <li>・呼びかけとこたえによるあいさつの活動を常時活動として設定し、音の高さを意識しながら友達とリレー唱ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かす活動を多く取り入れ、知覚・感受の手立てとする。</li> <li>・音楽表現の質が高まるような声掛けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○呼びかけとこたえによるあいさつの活動を常時活動として毎回実施したことで、全員が自分の声をよく聴き音の高さを意識しながら歌声を出すことができるようになった。</li> <li>○器楽や音楽づくりの活動では、音楽の仕組みを意識しながら活動する場を多く設定したことで、音楽表現の技能の習熟が早くなった。</li> <li>●感じ取ったことを発言することはできるが、文章にしてまとめることに課題がある。</li> </ul>
<p>図 工</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や用具が生み出す様々な色や形の面白さを全身で感じ取り、味わい、楽しみながら、意欲的に作品づくりに取り組むことができる。</li> <li>・はさみやのり、絵の具セットなどの基本的な用具の使い方が定着していない児童が1割弱いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品づくりの事前の活動として、用具の正しい使い方や表現技法を経験したり振り返ったりするための、ワークシートを使った簡単な練習の活動を取り入れる。そこで、児童の技能面の実態を把握するとともに、支援の必要な児童には、重点的に指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品が早く完成した児童には、形の見立てなどの簡単な課題（図工プリント）に取り組みせ、発想力を向上させるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な用具や材料のできる表現に関心をもち、それらと積極的に関わりながら意欲的に表現活動に取り組むことができた。</li> <li>○はさみやカッターナイフなど、基本的な用具の安全で正しい使い方を身に付け、怪我なく取り扱うことができるようになった。</li> <li>●色や形の特徴をもとに想像を広げ、自分なりに表現したいことを発想することに課題がある。</li> </ul>
<p>体 育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ全員の児童が走る、ボールを蹴るなどの動きを行うことができるが、雲梯や登り棒などの校庭の遊具を使った動きに課題がある児童が1割程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達の初期段階であることを踏まえ、リレー遊び、ボール遊び等多様な動きに親しませるために場の設定やルールを工夫する。</li> <li>・児童が見付けた動きのポイントを共有する時間を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雲梯等、日常生活の中で馴染みが薄い動きを体験する機会を多く設定し、児童に慣れ親しませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「跳び箱遊び」は日常生活の中で馴染みが薄い動きであるため、練習時間を多く設定したところ、約8割の児童が跳び箱を跳び越せるようになった。</li> <li>●児童自身が自分の動きを振り返ったり、動きのポイントをより分かりやすく共有したりできるように、視聴覚機器をさらに計画的に使う。</li> </ul>